

研究主題

主体的・協働的な学びを通して、思いや考えを深める児童の育成

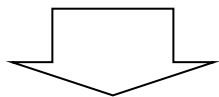
高学年（第5学年）分科会提案資料

児童の実態

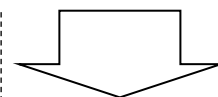
理科や社会といった他教科において、児童が学習計画を立てたり、個別の学習課題を設定したりする経験を積んできている。学習計画については、学級全体で検討をしながら計画を立てる経験から、少しずつ学習の組み立て方を理解してきた。課題解決を自分のみで行い、終わらせてしまう児童が多く見られていたが、練習単元に取り組み、協働する機会を増やしていることで、その良さに気づき始めている。本単元では自身の学習状況に応じて、自分で選択して学びを進めていけるようにしたい。

児童に付けたい力（指導事項）

- 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること（思C（1）エ）
- 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること（思C（1）オ）
- ◎文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること（思Cカ）



思考力・判断力・表現力

知識
技能

目指す児童像 分科会テーマ
伝え合いを通して、考えを見つめ直す児童の育成

テーマに迫るために（年間を通じて意識的に取り組む手立て） ※本単元についての手立ては後述する。

- ・各単元で指導事項を明確化し、その項目を重点的に指導する。

	教材名	指導重点事項	言語活動
6月	きいて、きいて、きいてみよう	思A（1）エ 話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめること。	思A（2）イ インタビューなどをして必要な情報を集めたり、それらを発表したりする活動。
6月	なまえつけてよ	思C（1）イ 登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。	
9月	よりよい学校生活のために	思A（1）オ 互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすること。	思A（2）ウ それぞれの立場から考えを伝えるなどして話し合う活動。
10月	たずねびと	思C（1）カ 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。	

1 月	提案しよう, 言葉とわたしたち	思 A (1) イ 話の内容が明確になるように, 事実と感想, 意見とを区別するなど, 話の構成を考えること。	思 A (2) ア 意見や提案など自分の考えを話したり, それらを聞いたりする活動。
3 月	大造じいさんとガン	思 C (1) エ 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり, 表現の効果を考えたりすること。	思 C (2) イ 詩や物語, 伝記などを読み, 内容を説明したり, 自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。

第5学年国語科学習展開案

令和2年10月27日（火）第5校時
 杉並区立高井戸第二小学校 5年3組31名
 授業者 教諭 佐藤 梨奈

- 1 単元名** 「物語の全体像をとらえ、考えたことを伝え合おう」（全10時間）
学習材 「たずねびと」（光村図書 5年）

2 単元の目標

- 人物像や物語など全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。
 ◎文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。
 （言語活動）物語に対する思いや考えを伝え合う。

3 単元の評価規準・単元に即した具体的評価規準

観点	ア 知識及び技能	イ 思考・判断・表現 【C 読むこと】	学びに向かう力 【主体的に取り組む態度】
単元 の評価 規準	○語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。 〈(1) オ〉	○「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(C (1) エ) ○「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。(C (1) オ) ○「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。(C (1) カ)	○粘り強く物語の全体像を具体的に想像し、学習の見通しをもって、物語に対する思いや考えを伝え合おうとしている。
学習活動に即した具体的な評価規準	〈第一次〉	○どんな場面が描かれているかを考えながら通読し、初発の感想をもっている。	○学習課題を捉え、学習計画を立てようとしている。
	〈第二次〉 ○登場人物の心情を捉えるときに、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識していく。	○心情の変化などを捉えて、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。 ○登場人物の心情を、行動や情景、心情描写を基に捉えている。	○粘り強く物語の全体像を具体的に想像し、学習の見通しをもって、物語に対する思いや考えを伝え合おうとしている。

		○意見や感想を共有し、友達の気付きや考えを受けて、自分の考えを広げている。 ○物語を読んで、変化した自分の気持ちや考えなどについて、自分の考えをまとめている。	
	〈第三次〉	○文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。	○交流して考えが広がったところなどの観点で、単元全体を振り返ろうとしている。

4 学びの構造転換に向けた単元の構成

(1) 学習材について

中心人物である「綾」の心情の変化をとらえ、物語にどのような役割や効果があるのかを考えることで、物語の全体像をとらえ、自分が考えたことを伝え合うことで、自分の考えを広げていくことを目指していく。

「たずねびと」のように、戦争を体験していない世代にとって、戦争が物語の中にしか存在しなくなってきつつある。戦争で多くの人たちが亡くなった事実を理解し、本文にある綾の思いのように、児童一人一人の「自分の思い」を重ねて読ませたい。

指導事項に関わって

文章を読んでまとめた意見や感想を共有し自分の考えを広げること重点を置いた学習を展開していく。自分の考えをまとめるには、文章構造と内容を把握し、精査・解釈することが求められる。用いられている言葉や表現の効果も考えながら、描写を確かに読み取り、今を生きる自分を見つめる活動につなげていきたい。

言語活動に関わって

物語に対する自分の思いや考えを伝え合う。そのためには、「綾」に自分を重ねて読み進めさせたい。「わたしが知っているのはそれくらいだ。」だという綾は、読み手である児童そのものである。物語の中の「綾」といっしょに広島を訪ね歩く中で、児童一人一人の中の「綾」が「アヤ」を尋ねて、多くのことを知り、気づき、考えを深めていく。それを友達と伝え合う中で、自分の中の変化を見つめさせていく。

教材・題材に関わって

本教材は、中心人物となる「綾」からの視点の一人称で描かれている。「綾」の考えや思いを、自分だったらどう考え思うか等、児童の経験や思いと重ねながら、考えを深めながら読ませていく。

(2) 学習者について

今年度、個人の課題を立てて解決していくことを社会科や理科で進めてきた。初めは協働する姿がそもそも少なく、普段から接している人同士でしか交流しない様子があった。また、協働の時間がただの意見発表にしかならず、個人の課題解決に繋がっている様子があまり見られなかった。しかし、何度もその流れを経験していく中で、個人の課題の立て方や、課題の解決の仕方にも慣れ、協働を積み重ねていく中で、話し合うことの良さに気付くことができた。

練習単元「一つの花」を改めて学習したときには、友達から得られる意見の大事さに気付き、多くの人と協働するこ

とができていた。その一方で、自分一人でじっくりやりたいという児童が3～4人いるため、ノートでの見取りや授業中の助言が大切になると考えた。本単元では、同じ課題の人同士でお互いの考えを交流して、新たな疑問に向けて解決しようとする姿が見られた。また、違う課題の人同士で交流する中で、新しい視点で叙述を捉え、自分の考えを深める姿が見られるようになった。叙述に立ち返り、多くの交流を通して新しい視点に気付かせ、課題解決をさせたい。

(3) 研究主題に迫る手立て

① 読み深めるための工夫

ア 単元計画の工夫

個人の課題解決をスムーズに行うために、読みの土台の部分を全員で学習したうえで、学習課題の探究をじっくりと行うことにした。そして、指導事項をきちんと押さえ、児童一人一人が探究する時間を十分にとれるよう、後半で全体課題を考える時間をとる計画とした。また、探究の最後の時間には、物語の全体像を読み深めることを目的として題名読みを行う。その際に、どのようにすればこれまでの読みを生かした協働ができるかを考え、発問の言葉を吟味する。

イ 練習単元を行う

今年度は、4月当初の物語単元が時間数減で取り組んだため、じっくり取り組む物語文が、この「たずねびと」になる。そこで、5年生までに学習した物語文から今回の学習単元のねらいに沿った教材をもとに、学習課題を作り探究する時間をとる。児童は学習課題を立て、主体的に学ぶ心地よさを感じたり、探究する面白さを知ったり、協働することで読み深める楽しさを実感したりすると予想される。

②協働の仕方の工夫

ア 対話の土台づくり

2学期にある「話す・聞く」単元を入れ替えて先に行うことで、話し合う素地を作る。また、高二タイムで様々な課題に5・6年で取り組み、自然に話し合う雰囲気が作れるようにする。それをスタートに、教科によらず、意図的な協働をする中で、自分から目的をもって協働できる力を付けるために児童の今までの経験をもとに、話し合い「達人ワード」を掲示し、お互いの考えをつなげて話し合いができるようにした。

イ タブレットの活用

タブレットのロイロノートに考えを書き、回答を共有することで児童同士が考えを共有する手がかりを見つけやすくした。学級全体での課題についての指導（一斉指導）では、一部の児童の発言で授業が進められることが予想されたため、一人一人が自分自身の考えをもち、主体的に協働できるようにタブレットパソコンを活用する。

5 学習指導計画（全10時間 本時9時間目）

次	時間	学習過程	主な学習活動	教師の関わり ◆評価規準【評価方法】
第0次	0	音読をする。 意味調べをする。		
第一次 <div>出会い</div> <div>課題設定</div>	1 2 3 4 5	個人課題作りをする。 学習計画を作る。 読みの土台を作る。	○初発の感想を書く。 ○伝えたい友達と交流したり、全体に発表したりする。 ○個人課題づくりを行う。 ○「綾」の心情の変化をとらえるためにそれぞれの場面で「綾」の前に現れたものや人物を確かめる。 ○「綾」の気持ちを自分と重ねながら読む。	<ul style="list-style-type: none"> ・本文への関心や期待感が増すよう、題名に対する違和感を取り上げる。 ・感想の内容は多様性を大事にする。 ・課題解決のためにどのような時間がほしいか児童に意見を出させ学習計画を決める。 ・学習計画、学び方の振り返りも掲示する。 <p>◆学習課題を捉え、学習計画を立てようとしている。【発言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時の感想と学習課題が途切れないように、配慮する <p>◆どんな場面が描かれているかを考えながら通読し、初発の感想をもっている。【発言・記述】</p>
個人課題の見直し				
第二次 <div>探究</div> <div>協働</div>	6 7 8	自分の考えを創る。探究に浸る。（2 1/2時間） 指導事項について学習する。（1/2時間）	○個人課題を解決する。 ○協働して課題解決する。 <div>全体の課題①</div> ○広島に着いてからの「綾」の気持ちの変化を読み取る。 ○情景描写「きれいな川」は、「綾」にとってどのようなものになったか読み取り想像する。	<ul style="list-style-type: none"> ・教師は学びの協同探究者として関わる。 ・学習者の学びの可能性を広げるために、学習者だけでは解決されない内容や、見方・考え方を提示し、学習を深める。 <p>◆心情の変化などを捉えて、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。【発言・記述】</p>

				<p>◆登場人物の心情を捉えるときに、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識している。【発言・記述】</p> <p>◆登場人物の心情を、行動や情景、心情描写を基に捉えている。【発言・記述】</p> <p>◆意見や感想を共有し、友達の気付きや考えを受けて、自分の考えを広げている。【発言・記述】</p> <p>◆物語を読んで、変化した自分の気持ちや考えなどについて、自分の考えをまとめている。【発言・記述】</p> <p>◆粘り強く物語の全体像を具体的に想像し、学習の見通しをもって、物語に対する思いや考えを伝え合おうとしている。【発言・記述】</p>
	9 本 時	個人課題の読みを生かして、指導事項について学習する。	<p><u>全体の課題②</u></p> <p>○なぜ「たずねびと」という題名をつけたのか考える。</p> <p>○協働を通して、題名の意図について話し合う。</p>	<p>・協働では、自由に交流ができるようにする。その際、考えを見える化する。</p> <p>・話し合いでは、個人課題について思い出させ、本時のねらいにつながっていることを実感させる。</p> <p>◆文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。【発言・記述】</p>
第 三 次 <u>ま と め る</u>	10	考えを形成する。	○学習問題について考え、友達と交流する中で、自分の気持ちや考えにどのような変化があったかについて感想文にまとめる。	<p>・毎時間の振り返りなどをもとにして最初と最後の自分の変化を見させる。</p> <p>◆交流して考えが広がったところなどの観点で、単元全体を振り返ろうとしている。【発言・記述】</p>

6 本時の指導 (9/10時)

(1) 本時のねらい

物語の全体像から、感じたことや考えたことを伝え合う。

(2) 展開

学習内容	主な学習活動	☆支援 ◆評価規準【評価方法】
1 本時の学習活動を確認する。	前時までを振り返り、題名読みをすることで読み深められることを確認する。	☆学習計画を掲示しておく。 ☆学習課題の一覧表を掲示しておく。 ☆ロイロノートを立ち上げておく。 ☆「一つの花」の題名読みと個人課題をきっかけに学習活動を確認する。
なぜ『たずねびと』という題名なのか考えよう		
2 自分の考えをノートに書く。	自分の考えをノートに書く。(自分の考え、叙述、今まで学習してきたこと)	☆前時までの個人課題で読み深めたことがつながっていることに気付かせるために、考えが書けない児童には、個人課題解決時のノートを見返すように助言する。
3 自分の考えをロイロノートのシートに書く。	↓ ノートに書いた自分の考えをロイロノートのシートに書く。(キーワード、一言、自分の名前)	☆ロイロノートに書かせる際は、キーワードなど短い言葉や文だけを書くように声掛けをする。 ◆文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。 【発言・記述】
4 友達の考えを知る。	ロイロノートを使って、回答を共有する。	☆児童 PC で友達の考えを全員見られるように回答共有を行う。
5 課題についての考えを共有する。(協働)	友達と話し合いながら、課題解決する。	☆児童 PC は友達の考えを確認するときだけに使用させ、協働中はノートを使用するように声掛けする。 ☆自分の考えを深めるために役立つ友達の意見や考えはノートに記録するように声掛けする。
6 全体で話し合い、考えを共有する。	自分の考えを発表したり、友達の考えを知ったりすることで考えを深めていく。	☆一つの意見に対して、ロイロノートを見ながら様々な児童に発言させる。
7 本時の振り返りをする。	なぜ「たずねびと」なのか自分の考えを改めてノートに書く。	☆ここまでの読みと交流の実態を見て、支援をする。